

1. 動物園の概要

沿 革

仙台市が動物公園事業に取り組んだ歴史は古く、昭和11年に広瀬川河畔、評定河原に全国で11番目の動物園として創設したのが仙台市の動物園の始まりです。この動物園は昭和19年の戦災により閉鎖となり、翌年に廃止されました。

その後、昭和32年に広瀬川沿いの三居沢の地に子供動物園として仙台市動物園が復活、約8年間市民に親しまれてきましたが、地勢など立地条件からみて新しい動物園の建設が検討されました。その結果、仙台城跡と竜ノ口溪谷に近く、西に蔵王連峰、北に泉ヶ岳、南東に市街地と太平洋を一望でき、かつて日米野球親善試合が行われた八木山球場もあった八木山地域が新動物園の最適地とされました。この敷地を紅久株式会社から恵与をうけ、昭和39年に故古賀忠道博士の綿密なご指導により、第1に「自然を出来るだけ残す」、第2に「無柵放養式」を基本構想とした建設に着手、アジア地域動物区の完成により昭和40年10月15日仙台市の新たな動物園として誕生しました。

以来、逐次園内の整備を進め、昭和44年10月アフリカ生態園、昭和53年4月は虫類館及びゴリラ放飼場を新設し、昭和56年度には希少ガン類の繁殖促進のガン生態園の整備にとりかかり、併せてふ卵育すうを一覧できるヒヨコの家を昭和57年9月にオープンしました。

平成4年6月には動物病院を移転改築し動物治療を充実、南入口を平成5年10月に新設して入園者の利便を計りました。また、動物本来の生態環境を模した放飼場で動物を見せる生態展示を基本構想として、平成11年6月にアフリカ平原放飼場とアフリカゾウ舎を改修、平成14年7月に猛獣舎を改築し環境教育にも利用できる施設となりました。

平成19年10月には、「八木山動物公園運営方針一百万人の動物園を目指して一」を策定し、平成27年度開業予定の地下鉄東西線を見据えた魅力ある動物公園施設整備等を行うこととしました。

また、環境教育事業の充実のため、平成19年9月に宮城教育大学との連携協力の覚書を締結し、野生動物を通じた環境教育プログラムの作成と実践に取り組むこととしました。

平成20年5月には、マダガスカル共和国チンバザザ動植物公園と協力協定を締結するとともに、国際協力機構（JICA）の草の根協力事業を活用して、職員を相互派遣し、飼育・繁殖技術と環境教育技術の移転を行いました。

平成21年6月から仙台・宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）に参加し、博物館連携事業の「見験楽学」を展開するとともに、平成22年4月には南入口と展示・研修スペースを併せ持つビジターセンターをオープンし新たな展示や事業を開始しています。

平成23年3月11日の東日本大震災では、施設や動物等に大きな被害は少なかったものの、ライフラインが停止し、動物が厳しい状況におかれました。日本動物園水族館協会からの餌の支

援や、たくさんの皆様からの応援をいただき、施設を仮復旧して4月23日に再開園しました。

また、日本動物園水族館協会に寄せられた見舞金を活用して、亀裂の入ったサル山を改修し、平成24年3月にリニューアルオープンしました。

平成24年度には、東日本大震災による社会情勢の変化や希少動物ジャイアントパンダの導入を見据えて、平成19年度に策定した「八木山動物公園運営方針」の再整備計画の見直しを行い、平成25年8月に、この運営方針の一部改定を行いました。

平成27年度は、10月15日に開園50周年を迎え、同月18日に記念式典を開催し、また、12月6日には地下鉄東西線が開業したことにより、交通の便が飛躍的に向上しました。

平成28年10月には昭和58年4月以来となる入園料の改定を行い、大人480円・小人120円としました。

平成29年4月には、八木山動物公園で初となるネーミングライツの運用を開始し、八木山動物公園再整備計画に基づくふれあい動物園整備事業では「ふれあいの丘」の整備が完了しました。同月に飲食物販棟「グーグーテラス」を先行して供用開始した後、7月にはヤギやヒツジなどとのふれあいや新たに導入したカピバラを観察できる体験型施設「ふれあい館」を含めた施設の全面供用を開始しました。

平成29年12月には「八木山動物公園運営方針」を改定し、老朽化した園内施設の長寿命化を進めることとし、平成30年3月に「八木山動物公園施設長寿命化他基本計画策定業務」に着手しました。

平成30年6月には国内で飼育されているアフリカゾウの繁殖に向け、秋田市大森山動物園及び盛岡市動物公園と、国内初となる個体交換を前提とした取り組みを開始しています。

平成31年2月にはクロサイの繁殖に成功し、令和元年10月には希少動物であるスマトラトラの繁殖に成功しています。

令和2年4月からは現ネーミングライツ「八木山動物公園フジサキの杜」の愛称で運用を開始しています。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月5日、4月11日から5月17日、5月18日から6月19日までの土日祝日、令和3年3月26日から令和3年5月11日まで、長期にわたり臨時休園を余儀なくされました。

令和3年8月には、老朽化した施設の長寿命化対策と動物園の魅力アップのための再整備を行うため、「八木山動物公園施設長寿命化再整備計画」を策定しました。

昭和11年	4月	仙台市動物園開園(評定河原:全国11番目)
20年	7月	戦災により廃止(19年9月以降閉鎖)
32年	10月	仙台市動物園復活(三居沢)
40年	10月	八木山動物公園開園(三居沢の動物も吸収)
41年	5月	文部省より博物館相当施設の指定を受ける
42年	4月	日本区にサル山, フライングケージ完成
44年	10月	アフリカ生態園完成
46年	1月	類人猿舎火災によりチンパンジー, オランウータン等を失う
53年	4月	は虫類館, ゴリラ放飼場, 鶉舎完成
56年	3月	小獣舎完成
57年	9月	ガン生態園, ヒヨコの家完成
58年	11月	国際保護鳥シジュウカラガン借入(アメリカ合衆国より)
59年	5月	シカ舎完成 国際友好都市・中国吉林省長春市と第1回動物交換(受:マーロー, 贈:マントヒヒ)
60年	10月	第1回シジュウカラガン放鳥(以降毎年放鳥を実施)
62年	3月	動物公園管理事務所建て替え
	6月	長春市と第2回動物交換(受:レッサーパンダ, 贈:グラントシマウマ) レッサーパンダ舎完成
	8月	カササギ舎完成, 韓国よりカササギ寄贈
63年	3月	ふ卵育すう室完成 カナダよりアメリカビーバー寄贈
平成元年	3月	休園日実施(月曜日)
	8月	長春市と第3回動物交換(受:コウノトリ, 贈:シロサイ)
2年	8月	アフリカゾウの子ゾウ2頭(♂♀)購入
4年	3月	新猛禽舎完成 ラマ舎, カンガルー舎建て替え
	6月	動物病院完成
5年	8月	長春市と第4回動物交換(受:ノガン, 贈:チンパンジー)
	10月	南入口完成
7年	3月	キリン舎完成
8年	3月	インコ舎完成
10年	3月	アフリカゾウ舎完成
	4月	財団法人仙台市公園緑地協会に管理運営委託
11年	6月	アフリカ平原放飼場リニューアルオープン
14年	4月	仙台市建設局八木山動物公園に組織変更
	7月	猛獣舎リニューアルオープン
17年	3月	カメハウス完成
19年	3月	立体駐車場完成
	9月	宮城教育大学と連携協定締結
	10月	八木山動物公園運営方針策定
20年	5月	マダガスカル共和国チンバザザ動植物公園と協力協定を締結
21年	4月	年間パスポート発売
22年	3月	ビジターセンター完成
23年	1月	オフィシャルサポーター制度施行
	3月	東日本大震災の影響により3月12日より閉園
	4月	4月23日再開園・新動物病院完成
27年	10月	八木山動物公園開園50周年
28年	10月	入園料改定(年間パスポート1,200円 大人480円 小人120円)
29年	3月	ふれあい動物園建設工事完成(新名称:ふれあいの丘)
	4月	八木山動物公園のネーミングライツ運用開始 「ふれあいの丘」レストラン「グーグーテラス」オープン
	7月	「ふれあいの丘」体験型施設「ふれあい館」オープン
	12月	「八木山動物公園運営方針」を改定
30年	3月	「八木山動物公園長寿命化他基本計画策定業務」に着手
30年	5月	アフリカゾウ繁殖に関する連携協定締結
令和2年	2月	JICA草の根技術協力事業「動物園を拠点とする生物多様性保全のためのESDプロジェクト」終了
	3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として屋内展示場3施設休止

令和2年	4月	ネーミングライツ「八木山動物公園フジサキの杜」運用開始 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として臨時休園
	5月	平日のみ再開
	6月	土曜日, 日曜日, 祝日再開
令和3年	3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として臨時休園
	5月	再開
	8月	八木山動物公園施設長寿命化再整備計画を策定 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として臨時休園
	9月	再開

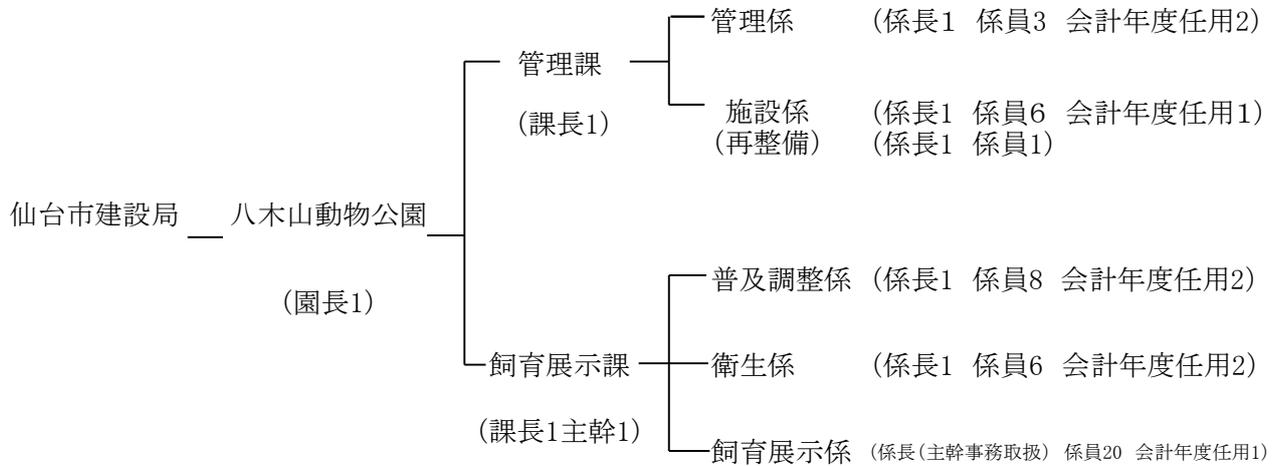
令和3年度の主な出来事

3月26日(金)～5月11日(火)	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として臨時休園
5月12日(水)	開園、屋内イベント再開
7月7日(水)	屋外イベント再開
8月18日(水)	サポーターイベント開催
8月20日(金)～8月22日(日)	ナイトミュージアム2021(夜間開園)を事前予約制で開催
8月30日(月)～9月12日(日)	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として臨時休園
9月14日(火)	開園、イベント全面再開(大規模イベントを除く)
9月8日(木)	アミメキリン「エミリー」来園(横浜市立よこはま動物園から)
9月23日(木)	動物感謝祭開催
11月15日(月)	グラントシマウマ「カイ」死亡
11月30日(火)	スマトラトラ「ダマイ」来園(名古屋市東山動植物園から)
12月10日(金)	グラントシマウマの赤ちゃん(オス)誕生
12月12日(日)	スマトラトラ「アオ」移動(名古屋市東山動植物園へ)
1月2日(日)～1月3日(月)	正月開園
1月5日(水)	スマトラトラ「ダマイ」の一般公開開始
2月22日(火)	グラントシマウマの赤ちゃんの一般公開・愛称募集開始
3月21日(月)	グラントシマウマの赤ちゃんの愛称決定「エル」、命名式開催

※各種園内イベントについては, p.34～「6.普及活動」に掲載

機 構 図

令和4年4月1日現在
()内は職員数 計61名



入 園 案 内

(1)入園料

令和4年4月1日現在

区 分	一般	小・中学生
個 人	480円	120円
団 体 (30 名 以 上)	380円	90円

- 年間パスポート 1,200円
- 未就学児は無料
- 入園料減免の規定あり

(2) 開園日及び時間

●開園時間

3月1日から10月31日 午前9時00分～午後4時45分
11月1日から 2月末日 午前9時00分～午後4時00分

●休園日

月曜日(ただし、月曜日が祝日や振替休日にあたる場合は、火曜日が休園日)
12月28日から1月4日

敷 地 面 積

121,405m²

構 造 物

(1) 管理施設等

施 設 名	構 造	延床面積m ²	備 考
ビジターセンター	W	1,885.57	1F:西門売札所, 展示室 2F:事務所
東門売札所	RC	30.81	
立体駐車場	S	4,211.94	
飲食, 物販, 休憩所	S, W	833.51	5棟
トイレ棟	RC, S	323.18	5棟
倉庫・物置等	RC, S	410.00	5棟
機械室, 受水槽等	RC, S, SS	187.03	5棟
ごみ置き場等	W, RC, SS	33.63	ゴミ置場, 堆肥舎, ポロ置場
旧動物病院	W	97.70	
動物焼却炉	S, W	20.35	
その他	RC	17.53	
計	—	8,051.25	

(2) 治療施設

施 設 名	構 造	延床面積	備 考
動物病院	W	409.70	
傷病野生鳥獣保護舎	S	28.00	
水鳥検疫舎	S	18.12	
予備施設	W	85.91	
計	-	541.73	

(3) 動物舎等

施設名	構造	延床面積(m ²)	放飼場面積(m ²)	備考
猛獣舎	RC	543.59	1,008.96	
アフリカゾウ舎	RC	918.35	1,500.00	
キリン舎	RC	331.69	1,700.00	
サイカバ舎	RC	792.15		
平原動物舎	RC	655.00		
類人猿舎	RC	343.00	390.00	
アビシニアコロブス舎	RC	44.78		
レッサーパンダ舎	RC	52.87	268.25	
は虫類館	RC	787.00		
ふれあい舎	W	870.90		
カンガルー舎	RC	43.70	398.53	
ラクダ舎	S	94.70	457.00	
ラマ舎	S	39.60	546.50	
クマ・サル舎	RC	79.32	201.72	
イノシシ舎	RC	29.45	215.77	
小獣舎	RC	87.00		
プレーリードッグ舎	S	4.00	14.00	
大型猛禽舎	S	80.00	72.00	
中小猛獣舎	S	138.00		
フラミンゴ舎	RC	29.34	430.00	
対州馬舎	S	121.50		
シカ・ヤギ舎	S	51.84		
ふ卵育すう室	RC	90.72	23.85	
インコ舎	S	58.00		
ゴリラ舎	RC	222.00	503.50	
ビーバー舎	W	7.00		
サル山			817.75	
ダチョウ放飼場			220.00	
アビシニアコロブス放飼場	S		65.00	
クロトキ舎	S		88.50	
クジャク舎	S		207.36	
カメハウス	W		62.00	
ツル舎	S		207.50	
シジュウカラガン検疫施設	W		84.00	
ガン生態園	S		1,165.00	
アシカ池			285.00	
水禽池			865.00	
計	—	6,515.50	11,797.19	

◇構造記号 RC:鉄筋コンクリート造 S:鉄骨造 SS:軽量鉄骨造 W:木造